

広報ワーキング

（2020年度 活動報告）

1. 広報活動の考え方について検討

- ・ ウェブサイト、掲示板、掲示物など、こむ1会としての広報制作物が多様にあるので、「広報の目的と内容や手法」を検討することから行った。
- ・ 活動方針として、広報活動には多くの人手が必要になってくると思うので、だれもが協力しあえるように、「わかりやすい仕組みづくり」が必要である。
- ・ こむ1会内の情報やノウハウの共有を促進する（記録化、文書化、アーカイブ化）。

2. ウェブサイトのリニューアルについて検討および制作

- ・ ぷらざこむ1のポータルサイト「コムワンネット」を、ドメイン取得およびサーバー契約して、7月から立ち上げた（<https://comonenet.com>）。今後は「ウェブサイト制作実行チーム」が企画および制作作業を引き継ぐ。
- ・ 誰もが更新作業できる仕組みを備えたシステムを導入し、リニューアル制作したのは、これまでのウェブサイトは更新作業に技術や手間が必要で、内容が更新されていない部分があるなど情報が探しにくい状態だった。

3. 案内動画制作について検討および制作

- ・ コロナ禍で「ぷらざこむ1の施設見学」の要請が来ても応えられない可能性があるため、一般市民の方向けの館内見学や施設説明をする動画制作（館内放映・ウェブサイト掲載など）を検討した（動画制作実行チームの立ち上げ検討中）。
- ・ 施設の特徴「利用者がボランティアで運営する施設」であること、飲食可能な場所、利用の際の注意事項など（字幕・音声解説など）を説明する動画を製作予定。

4. デジタル版マガジンについて検討および制作

- ・ こむ1会の会員同士の交流や運営委員会の議論や動向の情報共有のため、デジタル広報誌を制作し、メール配信およびウェブサイト掲載を検討した。「試作号」を制作し、今後は「デジマガ制作実行チーム」がデジマガの発行を行っていく。
- ・ 広報の配信システム整備（メール配信システム）を検討、会員の一人ひとりに届く仕組みを整える。

5. 「ウェブサイト制作実行チーム」の立ち上げ

6. 「デジマガ制作実行チーム」の立ち上げ

広報ワーキング

（2021年度 活動計画）

1. 広報活動についての継続検討

- ・ 館内見学の方法
- ・ 掲示板や館内の掲示物（館内表示）
- ・ 手話言語、音訳、映像（イラスト）を用いた広報の検討

2. 「ウェブサイト制作実行チーム」の継続

3. 「デジマガ制作実行チーム」の継続

4. 積極的な広報を行うことを検討

① 目的目標および現状

- ・ 宝塚市民なら「ぷらごこむ1」と「こむ1会」のことがわかるようにしたい。
- ・ 存在自体「どこ？」って言われ、フレミラとの違いが理解されていない現状を変えたい。「ボランティア団体が使う施設」の理解から（自分とは関係ない事として）関心が発展していかない状態。
- ・ こむ1会のことを知ってもらって、利用者（ボランティア）を増やす

② 内容（積極的な広報とは）

- ・ 館内見学の依頼などの紹介できる機会があれば広報を行う（待ちの姿勢）から、広報する機会を積極的に自ら探し、作り出して、行っていく（攻めの広報）。
- ・ こむ1会内（会員向け）の広報活動だけでなく、対外的（市民向け）な広報を検討する。例：子どもや市民対象に「館内見学」を自主的に企画して実施、子ども向けの館内見学のリーフレット作成配布など。
- ・ こむ1会への参画のメリットを広報する（現状はデメリットの方が目につきやすいので、良い点を見つめ直し、作り出して、積極的にアピールする）。例：「利用者が自分たちのチカラでつくれる施設」
- ・ 広報の「伝え方・言葉の使い方」は重要で、正しく伝える。例：「無料の施設」は誤解を生みやすく「施設の利用料は、社会的課題に取り組むボランティア活動の行動実績」と相応しい言葉を選ぶ。

5. 予算が必要になる（必要な経費が使える仕組みを検討）

- ・ 大人向き、子ども向きの資料作成（リーフレット作成代）、小学生への出前講座（説明資料作成）などの広報活動のための必要経費が不明確で計画しにくい現状がある。

6. ワーキングに多くの人が参画してもらおう仕組みを検討

（運営委員以外からも参加が欲しい）

- ・ 広報活動を細分化する（さまざまな実行チーム）ことで、作業内容が単純化、わかりやすく、部分的な参加がしやすくなるので、多くの人に興味ある作業や手伝える内容で参画が増える仕組みが必要。ワーキング間の連携も検討（広報の検討内容は、他のワーキングに横断や重複する内容）。